

ニセコ地区のここ20年の変化と背景

ここ20年程でインバウンドが激増し、国内屈指のリゾート地として注目を集めている北海道のニセコ地区（ニセコ観光圏：倶知安町、ニセコ町、蘭越町）。

冬は究極のパウダースノーを求める外国人スキー客で溢れ返るリゾート地として定着した。近年は夏場のサイクルツーリズムも盛況で、サイクリングを目的として3泊以上滞在するために国内外からニセコを訪れる観光客が増えている。

さらに「UCIグランfond ニセコクラシック」、「ニセコ HANAZONO ヒルクライム」など複数の自転車のイベントを開催し、関東、関西圏、海外のサイクリスト達が参加する。

もちろんこうしたスポーツ目的の観光客だけでなく、日常的にサイクルスポーツを楽しむ地域住民も増えている。エリアに住む外国人と日本人の自転車愛好者同士の

交流が広がり、サイクリングとスキーをするために移住し起業する方々が確実に増えている。夏季の外国人在住者数はエリアで1,000人を超えている。

北海道には海外のサイクリストが憧れる要素が数え切れないほどある。湿度が低く、快適な気温の夏場の環境、農業、漁業景観の素晴らしさ、食の楽しみもあり、魅力がたくさんある。私が拠点とするニセコ地区には、羊蹄山を一周できる45kmの周遊ルートがあり、喜茂別町、京極町、真狩村など羊蹄山麓の湧き水を味わえるスポットも外国人に人気である。酪農家が提供する乳製品を加工した飲むヨーグルト、ソフトクリーム等があり、農景観と雄大な羊蹄山を楽しめるシーニックルート（景勝ルート）も充実している。

世界へ夏と冬のスポーツツーリズムをブランド化するために

ヨーロッパでは自然景観、一次産業、景勝ルートを使っ



奥尻島で島の魅力を探訪

た観光戦略として、サイクリングを使っている。自転車レースの最高峰、「ツール・ド・フランス」は農景観や地方の食の魅力を発信する街をレースルートに取り入れており、ワイナリーや牧草ロール、小麦畑、美しい山の景色を楽しめるコースになっている。

ニセコ地区も NISEKO ブランドをスキー、サイクリング適地として発信し続け、今や地域経済を大きく回すこととなった。冬季は海外から4,000人が働きに来る場所となり、今年1月20日には5スターホテルのパークハイアットホテルニセコがオープンし、今後3つの5スターホテルのプロジェクトが準備されている。

しかし、スキー客の混雑や道路渋滞、駐車場不足など噴出してきた地域課題に官民で取り組むことがこのエリアの今後を占う。

インバウンド対象の サイクリングガイド育成とは

業界と地域の課題を理解する人材、地域経済とツーリズムをつなぐ人材は課題解決のために特に重要である。

インバウンド対象のサイクリングガイドとは地域を単



しまなみ海道を走破



烏取県大山で海岸線や里山風景を楽しむ

に多言語でガイドしたり、地域産業をつなぐだけではない。変化する地域課題に対し、自治体や観光協会、観光事業者とともに未来の課題解決と価値の発信を事業として行う人材でもある。

ニセコ地域は世界レベルのリゾートを目指しているので、スキー、サイクリングのガイドにおいても世界のガイド事業者、旅行会社、スポーツイベント、協会とつながり、一流のレベルでガイド事業を組み立てなければならない。日本独自の組み立てでインバウンドを回すのではなく、リスク管理、ガイディング、ガイド商品作りにおいてワールドレベルでの厳しい顧客サービスとフォローアップをこなす必要がある。

また滞在日数を伸ばし、素晴らしい時間を演出し、地域消費を促す地域のセールスマンとして、サイクリングガイドの誇りを持っていただけるよう事業をマネジメントすべきである。特に日本の地方や伝統を重んじるインバウンド。日々の学びとフィールドワーク、多言語と地域内コミュニケーションを活かし、何度もトライアンドエラーをしながらサイクリングガイドという地位を地方で築いていただきたい。



ビワイチで琵琶湖の魅力を堪能